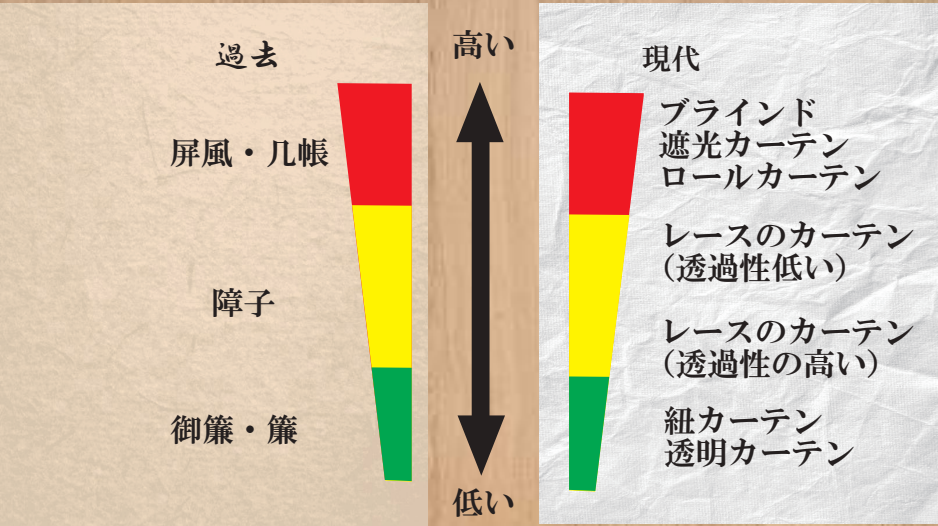


平成生まれの横丁に「和」の心を化粧する



おかげ横丁 計画敷地 1/3000

過去と現代の隠したい度合いに応じた姿隠し



心化粧（こころけしう）

絵巻物を見ると当時の人々は仕切りを造ることで空間として区切るだけではなく精神的な距離感を取っていたように私は感じる。例えば、几帳の裏に女性が隠れ、男性はその姿を見ずに話をする様子を描いた絵巻物がある。この精神を現代に置き換えると、誰かが入っている脱衣所とリビングの扉の物質的な重みは同じでも開き手にとっては精神的な重みが違ってくるようなものである。

この技法では、絵巻物から見て取れる間仕切りを「隠したい度合い」でグレード化し、それを現代の間仕切りであるカーテンに置き換え、建物全体（内外問わず）に取り付けていくことでモラルの可視化を行う。また、素材は布地のもので基本的に検討しており、透過性、材質の変化を利用することで繊細な日本人の「和」（モラル）を表現している。